

中学校国語教材の内容分析

青木茂樹

本稿は、岡本（1993）の研究にもとづいた中学1年生を対象にした国語科ワーク教材の内容分析である。

分析をおこなった図書教材は表1に示す5社から出されたもので、いずれもワーク教材または習得教材と呼ばれる部類に含まれる種類の教材である。なお、ワーク教材または習得教材とは、学習内容の理解と習得に役立てるための教材である。また、ワーク教材には、1) 各学年で使われている教科書の内容に即した「教科書ワーク」、2) その学年の総合的に教育目標をまとめた「総合ワーク」、3) 個々の教育目標の学習のための「目標ワーク」の種類がある。そのほか図書教材には、反復練習と授業内容の修得と定着に役立つ「ドリル教材または習熟教材」、学習内容の修得度・習熟度のテストと指導調整に役立つ「テスト教材ないしは評価教材」と呼ばれている種類がある。

（上記の分類は、岡本（1993）の分類をもとにし、ワーク教材は筆者の分類によるものである。）

表1 分析された国語科図書教材

出版社	書名	ページ数	種類
秀学社	新しい国語ワーク	112	教科書ワーク
文理・全教材	教科書ワーク	112	教科書ワーク
浜島書店	国語の学習	112	教科書ワーク
精華堂	新・基本学習	112	教科書ワーク
新学社	基礎の学習	112	教科書ワーク

1. 『国語1』の内容と教育目標

本稿で分析した教科書ワークの対象教科書は、いずれも光村図書出版の『国語1』（1学年用1993年）用に即した内容で編集されている。『国語1』の内容および教育目標は表2に示した通りである。

表2をもとに光村の国語教科書における学習内容について少し解説を加える。七つの単元からできている。それぞれの単元には学習目標があり、その学習目標は数種の教材をもとに学習される。それぞれの単元の中に含まれている教材は、文学的文章、説明的文章、詩などが適宜混在し、多角度から学習目標を達成されるように工夫されている。

全体の学習内容を大きく分けると、表現、理解、言語事項と分かれる。これは、当然ではあるが、学習指導要領の国語の目標および内容に準拠している。

単元別に見ると、まず、「一、学習のしかたを学ぶ」では単元の学習の着眼点のとらえ方を学ぶように構成されている。つまり、今後一年間単元ごとの学び方を、学習するのである。教材も詩・文学・説明文・言語事項がまんべんなく取り上げている。詩の学習をとおして、朗読により表現の方法、表現の特色を、文学的作品を通して作品構成を、説明的文章を通して、文章の要点のとらえ方、主題を学習するようになっている。「二、文学の楽しみ」の単元では、文学作品のおもしろをとらえることが目標である。「四、命ということ」では、登場人物の心情理解に目標がおかれている。人物の心情をさぐることにより作者の思いをとらえる試みである。「五、身の回りを見つめる」では、要点や文章構成をとらえることが目標となる。「七、「わたし」をこえて」、学習の総まとめで、情景、心情をとらえ作品の主題をとらえることが重要となる。また、言語事項に関しては、各教材ごとにその教材の理解を深めるための学習と言語理解のために特に重要な事項とが、要所要所に記載されている。

表2 光村の『国語1』の単元名、教材名、教育目標

単元	教材	教育目標
一 学 習 の し か を 学 ぶ	1. 野原はうたう (朗読) 2. スカイハイツ・オーケストラ (発言と話し合い) 3. 表現1) どうぞよろしく 4. ちょっと立ち止まって (辞書で学ぶ) (学習ノート) 5. 文法1) 文法を学ぶ	詩の読解 朗読の仕方 文学読解(文章の構成、段落の要点、心情等の理解) 読書感想発表、話し合いの仕方 自己紹介文の書き方(取材メモ、構想メモ等) 説明文の読解(要旨、段落の要点等の理解) 言語(語の意味、同訓の類義語 ノートの取り方(重要語句、図式化の仕方 文章、段落、文、文節、単語、品詞とは
二 文 楽 学 し の み	6. おいのり 7. (言葉の窓1)	文学読解(文章の構成、心情、事件の推移等の理解) 作文(様子や気持ちを詳しく書く) 言語(擬音後の使い方、合成された動詞の意味) 音読の仕方(区切る、アクセント、抑揚)
三 わ た し と 言 ち 葉	8. 心のメッセージ 9. (漢字の学習1) 10. 読書1) 流星の夜 11. (表現の広場) 伝える 12. (言葉の窓2)	説明文の読解(段落の要点、文のつながり等の理解) 言語(熟語の接頭語等の分解、共通のへん、つくり 等の漢字の作り 文学の読解(心情、主題等の理解) 体験の話し方・聞き方(取材メモ、構成メモ等) 言語(和語、漢語の特色、外来語の表記等)
四 命 と い う こ と	13. 大人になれなかった 弟たちに 14. 木琴 15. 命ということ 16. (表現に学ぶ1) 17. 文法2) 文の成分	文学の読解(心情の理解) 詩の読解(心情、主題の理解) 文学の読解(情景・心情の推移等の理解) 表現技法(会話、比喩、短いきききとした文等 文の組み立て(主・述・修飾・接続・独立語)
五 身 の 見 回 り を る	18. 自然の小さな診断役 19. 本当に必要なものは 20. (漢字の学習2) 21. (表現に学ぶ2)	説明文読解(段落の構成・要点、主題の理解) 説明文読解(段落の構成・要点・主題の理解) 言語(漢語を同義の和語に言い換え) 言語(同一漢字の熟語作り、読み方で変わる熟語) 表現(書き出しと結びの書き方)
六 古 典 と の 出 会 い	22. むかしむかし、うらしま 23. 蓬萊の玉の枝 24. 故事から生まれた言葉 25. 表現2) わたしの ○大ニュース 26. 新聞の読み方 27. 読書2) 巨鯨の目 28. (表現の広場) 遊ぶ 29. (言葉の窓) 30. 文法3) 接続・指示	文語文読解、古文の仮名遣い、言葉づかい 文語文読解、古文の仮名遣い、言葉づかい 漢文(故事成句の由来、意味) 表現(新聞の書き方、作り方-取材から割り振り迄 説明文読解(段落の要点、要旨の理解) 言語(言語の豊かさの理解、楽しい文章作り、作文) 言語(漢字の熟語作り、同音異義語(熟語)) 言語(接続語の語句の接続の仕方、使い方) 言語(指示する語句の働き、使い方)
七 わ た し え を て	31. 足どり 32. 少年の日の思い出 33. わたしの周りには、 いつもあなたがいる 34. 私をこえて	詩の読解(心情・情景、主題の理解) 文学の読解(文章の構成、主題の理解) 文学の読解(文章の構成、主題の理解) 鑑賞・批判、読書、作文、感想発表の発展学習

2. 教科書ワークの内容分析

2. 1 教科書ワークの問題分析

内容分析にあたっては、表3～表8に示したような、問題の分類枠組みを作成した。この分類にあたって、次に説明を加える。

まず、中学校国語教科書に掲載されている学習項目の内容を、大きく6項目に分類した。つまり、①説明文の読解に関するもの、②文学的文章の読解に関するもの、③詩の読解鑑賞に関するもの、④表現の学習に関するもの、⑤古典文学の学習に関するもの、⑥言語事項に関するものの6項目に分類される。実際の教科書では、先にあげたように、章ごとに学習目標が決められ、そのテーマにそった内容に、文学的文章なり説明文の学習が混在している。しかし、本稿では、章ごとのテーマにとらわれず、それぞれの教材の性質にそった分類を試みた。大きく分けた6項目の分類は、さらに第2段階に細分化される。

第2段階の分類は、出題意図の違いによる分類である。出題意図とは、その問によって理解して欲しい内容や事項のことである。①説明文の読解に関するワークは、1) 表現、2) 内容把握・要約、3) 文章・段落の構成、4) 重要な細部、5) 言語事項の6つの項目に分類された。そのうえで、各項目に対して出題方法の分類を試みた。つまり、選択、充填、書き抜き、記述などである。

2. 2 説明文の読解に関するワークの分類枠組み

説明文の読解に関する教材は、表2のうちの4, 5, 18, 19, 27, 33の6作品で、総ページ数37頁である。説明文の読解に関するワークの内容の分類枠組みは、表3のようになる。

「1) 表現」は、例として、自分が使っているあいさつことばを書き出させる問題などがある。

「2) 内容把握・要約」は、提示された文・文章または文節について、その要旨などを選択肢の中から選んだり、不完全な文章を穴埋めにより完成さ

せる問題である。

「3）文章・段落の構成」は、段落ごとの内容について、まとめる問題など。

「4）重要な細部」は、話題になっている出来事や事象の名前、地名、動物の名前、文中の重要な数値などを、答えさせる問題である。

「5）言語事項」は、漢字の書き取り、漢字の読み仮名をふる、熟語を完成させる問題である。なお、漢字の書き順は、正しい書き順を示し、解説しただけである。

表3 説明文の読解問題の分類枠組み

	出題意図	出題方法	内容
説 明 文 の 読 解	1) 表現	記述	挨拶の仕方、言葉を言い換える
	2) 内容把握・要約	選択 充填 書き抜き 記述	要旨を選択肢の中から選ぶ 要旨などの未完成文を完成させる 著者の提案を書き抜く 文意を説明する
	3) 文章・段落の構成	選択 充填 書き抜き 記述	意味段落を選択する 意味段落について充填する 意味段落の部分を書き抜く 段落の中心的話題をまとめる
	4) 重要な細部	選択 充填 書き抜き 記述	選択肢から文中の事物の名称を選ぶ 名称や数値を充填し文を完成させる 指示された事物名称を書き抜く 指示された事物を平易に説明
	5) 言語事項	漢字の読み 漢字の書き 漢字の書き順 語句の意味 類義語同義語 単語の使い方 熟語完成 品詞	新出漢字等にフリガナをふる 漢字の書き取り 正しい書き順が示してある 語句の意味を調べる 対になった類義語を完成させる 文中の特定の単語を言い換える 未完成な熟語を完成させる 品詞を答えさせる

2. 3 文学的文章の読解に関するワークの分類枠組み

文学的文章は、表2の2, 6, 10, 13, 15, 32の6作品で92頁ある。文学的文章の読解に関するワークの分類枠組みは、表4のようになる。

「2) 場面・心情の読み取り」は、登場人物の心情について、選択肢からもっとも適切なものを選択する。場面・情景について、記述させる問題。

「4) 重要な細部」は、登場人物、場所等の名称を、文中から抜き出したがり、あらすじを完成させるなどの方法で確認する問題である。

表4 文学的文章の読解の分類枠組み

	出題意図	出題方法	内 容
文学的文章の読解	1) 表現の方法	記述	感想を述べ方、メモの取り方
	2) 場面・心情の読み取り	選択 充填 書き抜き 記述	適切な登場人物の心情を選択する 未完成文を充填により完成 指示された理由を文中から書き抜く 心情の要約
	3) 文章・段落の構成	選択 充填 書き抜き 記述	意味段落を選択する 意味段落について充填する 意味段落の部分を書き抜く 段落の中心的話題をまとめる
	4) 重要な細部	選択 充填 書き抜き 記述	登場人物の関係を選択する 人物、名称を充填して文章の完成 文中から登場人物を抜き書きする 指示された人物のことをまとめる
	5) 言語事項	漢字の読み 漢字の書き 漢字の書き順 語句の意味 熟語完成 類義語同義語 単語の使い方	新出漢字等にフリガナをふる 漢字の書き取り 正しい書き順が示してある 語句の意味を調べる 未完成な熟語を完成させる 対になった類義語を完成させる 文中の特定の単語を言い換える

2. 4 詩の読解鑑賞に関するワークの分類枠組み

詩の読解鑑賞の教材は、表2の1, 14, 31の3作品7篇であり、総ページ数10頁である。詩の読解鑑賞に関するワークの分類枠組みは、表5のようになる。

「1) 表現の方法」は、朗読の方法について、読む速度、アクセント、音量について、適切な選択肢を選ぶ、または、記述させたりする。

表5 詩の読解鑑賞の分類枠組み

	出題意図	出題方法	内容
詩 の 読 解 鑑 賞	1) 表現の仕方	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	朗読の仕方を選択肢から選ぶ 比喩表現の意味を充填する アクセントを付ける部分を書き抜く 朗読の仕方を記入させる
	2) 場面・心情の 読み取り	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	場面や情景に適切なものを選択 未完成文を充填により完成 指示された理由を文中から書き抜く 場面や心情の要約
	3) 文章・段落の構成	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	意味段落を選択する 意味段落について充填する 連の対応関係を書き抜く 段落の中心的話題をまとめる
	4) 重要な細部	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	登場人物の関係を選択する 人物、名称を充填して文章の完成 文中から登場人物を抜き書きする 指示された人物のことをまとめる
	5) 言語事項	漢字の読み 漢字の書き 漢字の書き順 語句の意味 単語の使い方	新出漢字等にフリガナをふる 漢字の書き取り 正しい書き順が示してある 語句の意味を調べる 文中の特定の単語を言い換える

2. 5 表現の学習に関するワークの分類枠組み

表現の学習の教材は、表2の3, 11, 16, 21, 25, 28で総ページ数41頁である。表現の学習に関するワークの分類枠組みは、表6のようになる。

「3) 場面・心情の読み取り」は、教科書に掲載してある表現の例としての作品について、その場面・心情の読解である。

「6) 選材・発想」は、いつ、どこで、だれが、だれと、どうしたという5W1Hについてのメモの取り方等の質問。

表6 表現の学習の分類枠組み

	出題意図	出題方法	内 容
表 現 の 学 習	1) 表現	作 文	自己紹介文を書く
	2) 表現の方法	選 択 書 き 抜 き 記 述	メモの書き方についての注意を選択 メモを読み取り、指示された書抜き 取材メモをまとめる
	3) 場面・心情の 読み取り	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	適切な登場人物の心情を選択する 未完成文を充填により完成 指示された理由を文中から書き抜く 心情の要約
	4) 文章・段落の構成	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	意味段落を選択する 意味段落について充填する 意味段落の部分を書き抜く 段落の中心的話題をまとめる
	5) 内容把握・要約	選 択 充 填 書 き 抜 き 記 述	要旨を選択肢の中から選ぶ 要旨などの未完成文を完成させる 著者の提案を書き抜く 文意を説明する
	6) 選材・発想	充 填 書 き 抜 き 記 述	5W1Hを充填させる 文中の紹介の注意事項を抜き書き 例文の5W1Hを書かせる
	7) 言語事項	漢字の読み 漢字の書き 漢字の書き順 語句の意味	新出漢字等にフリガナをふる 漢字の書き取り 正しい書き順が示してある 語句の意味を調べる

2. 6 古典文学の学習に関するワークの分類枠組み

古典文学の学習の教材は、表2から、22, 23, 24の3作品である。古典文学の学習に関するワークの分類枠組みは、表7のようになる。

「1) 内容把握・要約」は、古文だけではなく、現代文についても多く質問されている。文学的文章の読解に近い質問が多い。

「3) 言語事項」では、特に、古語についての言語事項についての質問事項が多く問われている。

2. 7 言語事項に関するワークの分類枠組み

言語事項に関する教材は、5, 7, 9, 12, 17, 20, 29, 30であり、総ページ数26頁である。しかし、どの教科書ワークも該当教材のワークの他に漢字の復習などの言語事項に関するワークが多分に含まれている。言語事項に関する

表7 古典文学の学習の分類枠組み

	出題意図	出題方法	内容
古典文学の学習	1) 内容把握・要約	選択 充填 書き抜き 記述	要旨を選択肢の中から選ぶ 要旨などの未完成文を完成させる 文節や文の受けを書き抜く 文意を説明する
	2) 重要な細部	選択 充填 書き抜き 記述	登場人物の関係を選択する 人物、名称を充填して文章の完成 文中から登場人物を抜き書きする 指示された人物のことをまとめる
	3) 言語事項	漢字の読み 漢字の書き 漢字の書き順 語句の意味 類義語同義語 単語の使い方 古語仮名遣い 古語の意味 古文の訳 漢文の読み 漢文の訳	新出漢字等にフリガナをふる 漢字の書き取り 正しい書き順が示してある 語句の意味を調べる 対になった類義語を完成させる 文中の特定の単語を短文を作る 古語の仮名遣いに直す 古語の意味を書かせる 古文を訳す 漢文を書き下す 漢文を現代語訳する

ワークの分類枠組みは、表8のようになる。

表8 言語事項の学習の分類枠組み

	出題意図	出題方法	内容
言語事項の学習	1) 単語・文節・文・段落	選択 補充 書き抜き 記述	主語、述語を選ばせる。 文や文節の説明文の完成 連文節を抜き書きする。 文を作り替える。
	2) 主語・述語・修飾語	選択 書き抜き 記述	指摘した文節の成分を選ぶ。 主語を書き抜く。 文を書き換える。
	3) 接続に関すること	選択 補充 書き抜き	適切な接続語を選ぶ。 空欄に適切な接続語を書き込む 接続語を書き抜く。
	4) 漢字と熟語	漢字の読み 漢字の書き 漢字の成立 熟語の組合せ 熟語の意味 単語の品詞 音読み訓読み 同音異義語 類義語対義語	単元ごとの漢字読みの復習。 単元ごとの漢字の書き復習。 つくりやへんについての問題 一語を中心に幾つか熟語を作る 熟語の意味の変化 品詞についての問題 一語を幾つか音読みさせる。 同音の語を書かせる。 対義語を書き出させる。
	5) ことば	話し言葉書き言葉 ことわざ 慣用句の使い方	話し言葉と書き言葉の違い ことわざの意味を答える 慣用句で短文を作る

「1) 単語・文節・文・段落」は、文法事項で、文章を、単語ごと文節ごとに区切る問題などである。

「2) 主語・述語・修飾語」は、主語や述語を選びだす問題や、主語、述語、修飾語を区別させる問題などである。

「3) 接続に関すること」は、空所に適切な接続詞を充填したり、修飾語を置換えることによる意味の違いを記述させる。

「4) 漢字と熟語」は、ここは他の教材ワークと違い、復習的な要素を含んでいる問題が多い。その他、教科にある言語事項の学習が含まれる。

「5) ことば」は、話し言葉と書き言葉の性質の違いについての問題。ことわざの意味の問題。慣用句の使い方の問題である。

3. 各社の教科書ワークの内容比較

3. 1 教材別割合

表9は、学習教材別に各社がどのくらいの割合で、ページ数を割いているかを示した表である。説明文の読解では、ほとんどが同じ割合である。文学的文章の読解では、E社のページ数が多い。それとは逆に、表現の学習ではE社が少ない。言語事項では、A社とC社が他社よりも多くのページ数を割いていることがわかる。その他は、学習教材のワークではなく、図版や写真などが独立して掲載されているページ数を示している。図版や写真といった資料は、どの教材のワークにも部分的に挟みこまれていて理解の補助的役割を果たすものである。その資料の独立した部分を注目すれば、資料をどれだけ重視しているか見て取れるのではないか。その点、B社は、多くのページを費やしている。

表9 教科書ワーク別教材種類の割合

(ページ)

	A社	B社	C社	D社	E社
説明文の読解	24	24	24	26	26
文学的文章の読解	29	29	31	32	34
詩の読解鑑賞	6	8	7	8	8
表現の学習	13	10	12	13	7
古典文学の学習	11	13	11	13	14
言語事項の学習	22	17	22	16	16
その他(資料)	8	11	5	4	7

3. 2 説明文の内容分析

表10は、説明文の読解の各社の出題傾向である。各社とも、2) 内容把握・

要約に関しての問題に多くの紙幅を費やしている。その中で、出題方法の傾向として、C、D、E社が、要旨を書かせたり、文意を説明させたりする問題がやや多い傾向があるようだ。これは、空所の重点や書き抜きより、高度な能力が必要とされると思われる。問題としては、多少難しいと言えるだろう。

作品理解のためには、言語事項についての学習が必ず必要である。どの社も漢字の読みについてはだいたい同じ問題数をあてており、教材の学習の最初に位置している。E社は、漢字の書き、書き順、など言語事項に多くの問題を配置し、問題数も多くなっていることは、作品理解のために言語事項を重視しているのではないか。

表10 説明文の読解問題の各社の出題傾向

(問題数)

	出題意図	出題方法	A社	B社	C社	D社	E社
説 明 文 の 読 解	1) 表現	記述	—	—	—	—	3
	2) 内容把握・要約	選択	6	11	11	7	14
		充填	18	26	19	27	11
		書き抜き	25	21	27	24	20
		記述	8	24	39	35	32
	3) 文章・段落の構成	選択	—	2	—	—	1
		充填	1	8	4	—	3
		書き抜き	—	—	1	—	1
		記述	3	1	1	2	—
	4) 重要な細部	選択	—	—	1	—	—
		充填	3	3	3	4	7
		書き抜き	5	3	3	10	1
記述		1	1	1	—	4	
5) 言語事項	漢字の読み	6	6	7	6	6	
	漢字の書き	—	—	7	6	1	
	漢字の書き順	6	—	5	—	5	
	語句の意味	6	6	—	6	5	
	類義語同義語	—	—	—	—	4	
	単語の使い方	—	—	—	1	1	
	熟語完成	—	—	—	—	4	
	接続詞の用法	—	—	—	—	1	

3. 3 文学的文章の内容分析

表11は、文学的文章の読解の各社の出題傾向である。各社とも2) 場面・心情の読み取りに重点をおいている出題である。場面や人物などの描写を読み取ることができることは、理解力、鑑賞力などを高めたり、思考力を養うことになる。これは、学習指導要領の基本方針と合致することである。文学的文章の読解に対する問題全体を見渡すと、表現の方法で自分の感想を表現することなどの問題が、B社とD社のみ扱っているだけだった。文学的文章は創造力鑑賞力を身につけるのに最適であり、こと点が他者でも取り上げれば良いと思う。文章・段落の構成についての問題は、D社とE社のみであった。

表11 文学的文章読解の各社の出題傾向

(問題数)

	出題意図	出題方法	A社	B社	C社	D社	E社
文学的文章の読解	1) 表現	記述	—	3	—	1	—
	2) 場面・心情の読み取り	選択	24	33	18	45	25
		充填	15	29	25	35	21
		書き抜き	36	30	25	41	22
		記述	11	35	43	35	43
	3) 文章・段落の構成	選択	—	—	—	1	2
		充填	—	—	—	—	1
		書き抜き	—	—	—	1	—
		記述	—	—	—	—	3
	4) 重要な細部	選択	—	—	—	—	4
		充填	3	6	6	1	7
		書き抜き	10	5	15	6	2
		記述	—	3	—	—	11
	5) 言語事項	漢字の読み	6	7	6	6	6
		漢字の書き	—	—	—	6	—
漢字の書き順		6	—	6	—	6	
語句の意味		6	5	5	6	5	
熟語完成		—	—	—	—	3	
類義語同義語		—	—	—	—	3	
単語の使い方		—	2	—	—	6	

3. 4 詩の読解鑑賞の内容分析

表12は、詩の読解鑑賞の各社の出題傾向である。ここでは、2) 場面・心情の読み取りに関する問題が多いことが言える。しかし、ここでは、1) 表現の方法の出題に注目すべきであろう。詩の読解鑑賞でも表現の方法は、朗読の仕方に重点が置かれている。つまり、音声表現を適切に行なうことを身につけることによって、詩の情景や、作者の心情を読み取るという試みである。

表12 詩の読解鑑賞の各社の出題傾向

(問題数)

出題意図		出題方法	A社	B社	C社	D社	E社
詩 の 読 解 鑑 賞	1) 表現の方法	選 択	3	1	2	—	3
		充 填	—	—	—	1	—
		書 き 抜 き 記 述	—	1	—	1	—
	2) 場面・心情の 読み取り	選 択	1	13	6	15	12
		充 填 書 き 抜 き 記 述	6 2 14	2 6 8	4 6 14	1 6 5	3 1 7
3) 文章・段落の構成	選 択	2	1	2	3	2	
	充 填	1	2	2	4	1	
	書 き 抜 き 記 述	— 1	— 1	— 1	— —	1 —	
4) 重要な細部	選 択	—	—	2	—	—	
	充 填	—	2	—	—	2	
	書 き 抜 き	—	1	—	—	—	
	記 述	—	1	—	—	—	
5) 言語事項	漢字の読み	—	1	3	1	2	
	漢字の書き	—	—	—	1	—	
	漢字の書き順	—	—	1	—	—	
	語句の意味	—	1	—	2	—	
	単語の使い方	—	—	—	—	1	

3. 5 表現の学習の内容分析

表13は、表現の学習の各社の出題傾向である。ここで特徴があることはB社が、作品例を用いて、3) 場面・心情の読み取りを意図とした問題を多く作問して、ここでも読解を重視していることである。また、どの社もメモの取り方の学習を通して6) 選材・発想についての問題が中心になっている。だが、E社はこの表現の学習に関しては、他のワークよりも重要度が欠けるようである。それは、表9の教材割合からも言えることである。

表13 表現の学習の各社の出題傾向

(問題数)

	出題意図	出題方法	A社	B社	C社	D社	E社
表 現	1) 表現	作文	—	1	3	4	1
	2) 表現の方法	選択	—	1	—	—	—
		書き	—	3	—	—	—
記述		1	1	—	—	—	
の	3) 場面・心情の 読み取り	選択	1	3	—	1	—
		補充	—	6	3	2	—
		書き	4	5	1	—	—
学	4) 文章・段落の構成	記述	11	5	1	8	—
		選択	1	—	—	—	—
		補充	3	—	1	—	—
習	5) 内容把握・要約	記述	2	—	—	—	—
		選択	—	—	1	—	—
		補充	—	—	4	—	1
習	6) 選材・発想	書き	—	—	1	—	—
		記述	—	—	1	—	—
		補充	—	—	1	4	—
習	7) 言語事項	補充	—	1	—	1	—
		書き	—	7	7	5	1
		記述	13	1	3	4	13
		漢字の読み	4	3	4	4	4
	漢字の書き	—	—	—	3	—	
	漢字の書き順	—	—	4	—	—	
	語句の意味	4	—	—	1	—	

3. 6 古典文学の学習の内容分析

表14は、古典文学の学習の各社の出題傾向である。古典文学の教材は、どれも内容が理解しやすく、また親しみやすい作品が選ばれている。古典文学の学習においては、内容の理解、表現の効果などが指導内容の主なものとなる。その点から言ってもどの教科書ワークも、内容把握の問題に重点が置かれていることは、妥当なことと言えるだろう。

表14 古典文学の学習の各社の出題傾向

(問題数)

	出題意図	出題方法	A社	B社	C社	D社	E社
古典文学の学習	1) 内容把握・要約	択	3	9	7	6	7
		充	5	12	9	9	9
		書き抜き	6	11	6	13	12
		記述	14	10	17	9	13
	2) 重要な細部	充	—	1	3	4	3
		書き抜き	8	4	4	3	7
		記述	1	—	1	—	—
	3) 言語事項	漢字の読み	3	3	3	2	3
		漢字の書き	—	—	—	3	—
		漢字の書き順	—	—	3	—	2
語句の意味		2	3	—	2	2	
単語の使い方		—	—	—	3	—	
古語仮名遣い		1	3	3	2	2	
古語の意味		1	1	—	—	—	
古文の訳		—	3	2	1	2	
漢文の読み		1	—	—	—	—	
漢文の訳	1	—	—	1	1		

3. 7 言語事項の内容分析

表15は、言語事項の学習の各社の出題傾向である。ここで特徴的なのは、D社では漢字の読みの出題がないことである。言語事項の学習で漢字に関しては、復習的な要素が強く含まれている。小学校で学習した漢字や、各单元ごとに出てきた重要な漢字または新出漢字などをまとめて、その読みや書き取りを復習するようになっている。しかし、D社には、そのうちの漢字の読みについて、作問がなされていない。

また、言語事項は、表現や理解の根底を成すものである。言語事項が身につくことによって、よりの確な表現や深い理解ができるようになることは言うま

表15 言語事項の学習の各社の出題傾向

(問題数)

	出題意図	出題方法	A社	B社	C社	D社	E社
言語事項の学習	1) 単語・文節・ 文・段落	選 択	3	1	—	—	—
		充 填	—	4	3	3	—
		書 き 抜 き	10	—	—	—	1
		記 述	—	2	1	1	3
	2) 主語・述語・ 修飾語	充 填	8	3	8	4	6
		書 き 抜 き	3	—	3	—	—
		記 述	—	1	—	—	1
	3) 接続に関すること	選 択	4	8	7	4	10
		充 填	2	1	1	1	—
		書 き 抜 き	—	—	1	1	1
	4) 漢字と熟語	漢字の読み	8	10	6	—	8
		漢字の書き	7	8	12	9	11
漢字の成立		1	3	5	5	3	
熟語の組合せ		1	3	4	4	7	
熟語の意味		1	1	—	2	2	
単語の品詞		1	3	3	—	1	
音読み訓読み		—	3	—	—	—	
同音異義語		—	—	1	1	2	
類義語対義語	—	2	—	2	4		
5) ことば	話し言葉書き言葉	1	3	4	4	3	
	ことわざ	1	1	—	—	—	
	慣用句の使い方	—	1	—	—	—	

でもないことであろう。そのことから言語事項に関して、各社は、学習教材の単なる予習復習といった補助的な存在のみに留まらず、独自の問題を取り入れることによって力を付ける試みがなされているのではないか。

以上が中学校「教科書ワーク」の内容分析である。本稿の分析では、内容を説明文の読解、文学的文章の読解、詩の読解鑑賞、表現の学習、古典文学の学習、言語事項の学習と6つの領域に分けた。その上で下位分類を行って考察してきた。「中学校学習指導要領」および「中学校指導書 国語編」の分類視点によれば、表現、理解および言語事項が中学校国語の目標であり、内容である。上記の分類はその立場からの考察であった。

その考察からも、A社～E社の「教科書ワーク」は、いずれの領域も視点からもらさず、問題づくりに苦心されていることが解った。さまざまな資料などを盛り込むことによって、学習教材の興味や関心を増すように努力されている。

また、各社の特色がその出題方法からうかがえる。その難易度や視点の違いがあるが、この点は今後の研究課題となる。

参考文献

- 岡本奎六「図書教材の内容分析（その1）——小学校国語科の図書教材を中心に——」成城大学大学院文学研究科 コミュニケーション紀要第7輯 1993
- 文部省『中学校学習指導要領』大蔵省印刷局 1989
- 文部省『中学校指導書 国語編』東京書籍 1989
- 熱海則夫監修『国語科の解説と実戦』小学館 1989